

浜口陽三・
丹阿弥丹波子
二人展
はるかな符号
大岡亜紀の詩と共に

2015.4.4 sat - 6.30 tue

ミュージゼ浜口陽三・ヤマサコレクション

休館日 | 月曜日 (5/4は開館)、5/10(日)12:00閉館

開館時間 | 11:00 - 17:00 (土日祝10:00 - /最終入館16:30)

《ナイトミュージアム / 会期中第1・3金曜20:00まで開館 / 最終入館19:30》

* 第1・3金曜…4/17、5/1、5/15、6/5、6/19

* 5/10(日)はイベント開催のため、12:00以降は展示が見られません。(ご予約者のみ13:00より入館受付)

* 4/26(日)は体験教室のため、1階会場が鑑賞しにくくなります。

消えゆくものと過ぎゆくものは
みずからを祝して
肥沃な日記へ身をひるがえす
はるかな符号となるために

詩「実りのとき」大岡亜紀 より抜粋



丹阿弥丹波子

たんあみにわこ



ごあいさつ

光芒を放つ二人の銅版画作品を、画家・詩人の大岡亜紀の詩と共に鑑賞する展覧会です。

1950年代半ば、芸術の中心地パリでは、浜口陽三(1909-2000)が新しい技法、「カラーメゾチント」を編みだし、柔らかな独自の作風を作りあげました。1957年には2つの国際版画ビエンナーレで大賞を獲得するなど、国際舞台で華々しく活躍し、今なお20世紀を代表する版画家として世界に知られています。

丹阿弥丹波子(1927-)は、日本画家を父に持ち、描くことを生きることの一部として育ちました。国内では情報も道具も少なかった1956年に銅版画と出会い、駒井哲郎に師事しました。その後現在に至るまで、表現する情熱を銅版画に注ぎ込み、春陽会を中心に清冽な作品を発表し続けています。生前の浜口陽三も、何度となく彼女の個展に足を運びました。

表現の方向性は異なりますが、二人は同じ技法を用いて澄んだ境地を得た銅版画家です。銅を刻むひたむきな作業から、偽りのない光や命を生みだします。果物や花はスケッチではなく、時を重ねて生み出す心のかたち、結晶です。

本展では、丹阿弥丹波子作品に貫かれる強い力を、大岡亜紀が詩に歌いあげます。

銅版画約60点と、新作の詩3編の構成です。



浜口陽三

はまぐちようそう

掲載作品

表:上から順に

「赤い血」浜口陽三 1969年 カラーメゾチント 24.5×51.7cm

「花'75」丹阿弥丹波子 1975年 メゾチント 30.0×36.5cm 神奈川県立近代美術館蔵 撮影:久保良

裏:上から順に

「フランネルフラワーたち」丹阿弥丹波子 2013年 メゾチント 32.5×24.0cm 作家蔵 撮影:青柳茂

「2匹のてんとう虫」浜口陽三 1975年 カラーメゾチント 9.4×9.5cm

「ふどう」浜口陽三 ca.1954年 カラーメゾチント 14.5×19.5cm

協力:神奈川県立近代美術館、茅ヶ崎市美術館

作家プロフィール
■ 浜口 陽三 (1909-2000) 銅版画家 和歌山県生まれ
 1930年に渡仏。'53年に再びパリに渡り、新しい銅版画の技法「カラーメゾチント」を開拓。魅力的な作品によって国際的な版画の興隆を牽引した一人。「エンサイクロペディア・ブリタニカ」(ブリタニカ百科事典)に今もその名が紹介されている。

■ 丹阿弥 丹波子 (1927-) 銅版画家 東京都生まれ
 1956年駒井哲郎に師事。'58年春陽展初入選、研究賞・岡鹿之助賞受賞。'71年銀座資生堂ギャラリーで初個展。以降、ギャラリー上田、シロタ画廊(以上銀座)、ギャラリーブチフォルム(大阪)、日本橋高島屋、白銅靱画廊(京橋)、アサヒギャラリー(甲府)ほかで画廊企画の個展を続けている。

■ 大岡 亜紀 (1963-) 画家・詩人 東京都生まれ
 武蔵野美術大学日本画学科卒業。岩絵具による抽象絵画と詩を制作。書籍の装画や挿絵も手がける。また連詩への参加や、歌人とともに「連詩歌」創作も行っている。詩集は「新パベルの塔」、「ある時はじめて」、「光のせせらぎ」(花神社刊)など。

関連イベント

*詳細はHPまたはお電話にてご確認ください。

イベント申込方法 | ①②…4月7日(火)11:00~ ③…3月17日(火)11:00~
 お電話にて受付開始(先着順)

①対談「銅版画の余白に」

作品や制作のことなど、40年来刷りを担当されている小川氏と共に語っていただけます。

出演 | 丹阿弥 丹波子(銅版画家)

小川 正明(銅版画家、女子美術大学名誉教授、現在女子美術大学付属高等学校・中学校校長)

日時 | 5月10日(日)14:00~15:00 *対談後1時間程度、自由参加のお茶会があります。

定員 | 50名 参加費 | 入館料+200円

②ワークショップ「ボタニカル アルファベット」

風合いあるドライフラワーでアレンジメントし、オリジナルのアルファベットを制作します。

講師 | 高沢 祥子(フローリスト/geckou)

日時 | 6月8日(月)【午前の回】10:30~12:30

【午後の回】14:30~16:30

定員 | 各回10名

参加費 | 入館料+2500円(材料費込)

持ち物 | クラフトばさみ(お持ちの方)、

底面が20×20cm程度ある袋(お持ち帰り用)

*申込の際にアルファベットの英文字「A~Z」からご希望のものをご予約いただけます。
 *予め個々のオリジナル資材を発送する関係上、申込後のキャンセルは不可となります。
 *休館日の開催となりますが、展覧会をご覧いただけます。



③銅版画体験教室「目立てから始めるメゾチント」

ピロードのような黒の秘密を探りながら、「目立て」「製版」「刷り」を実践する初心者向けの教室です。

講師 | 江本 創(アーティスト)

日時 | 【A】4月26日(日)14:00~17:00 【B】4月27日(月)14:00~17:00

定員 | 各回10名 参加費 | 入館料+2000円(材料費込)

持ち物 | 下絵(サイズ5×5cm)、汚れても良い服装またはエプロン

*【B】は休館日の開催となりますが、展覧会をご覧いただけます。

《お知らせ》同時期に茅ヶ崎市美術館にて丹阿弥丹波子展が開催されます。

「時のきらめき 丹阿弥丹波子 銅版画展」4月5日(日)~6月7日(日)

*上記の展覧会観覧券の半券をご提示いただくと、本展を100円引きにてご覧いただけます(他の割引との併用可)。

ミュージゼ 浜口陽三・ヤマサコレクション

入館料 | 大人600円 大学・高校生400円 中学生以下無料

所在地 | 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-35-7

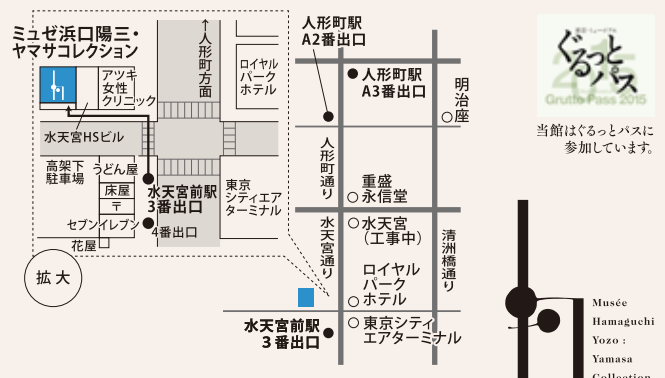
Tel | 03-3665-0251 Fax | 03-3665-0257

Mail | musee@yamasa.com HP | http://www.yamasa.com/musee/

アクセス | 東京メトロ半蔵門線[水天宮前]3番出口そば

東京メトロ日比谷線[人形町]A2出口徒歩8分

首都高速箱崎1.C[浜町出口]または[清洲橋出口]T-CAT駐車場前



当館はぐるっとバスに参加しています。

